

学校関係者評価委員会
令和4年度 第2回委員会 議事録

1. 日時および場所

日 時：令和5年2月14日(火) 18:00～19:30

場 所：修成建設専門学校 129 教室

2. 出席者（順不同、敬称略）

委員

丸山 徹、土井 啓安、相賀 勝、藤田 晴樹、鈴木 邦彦（代理：阿部 明博）、大槻 憲章、
田中 文雄、大和 正、森本 起三子 （計9名）

学校（オブザーバー）

堤下隆司（校長兼ガーデンデザイン学科科長）、見邨佳朗（副校長兼建築学科科長）、
谷川博康（学生相談室室長）、増田和浩（建築学科夜副科長）、鍵谷啓太（空間デザイン
学科科 長）、玉井香里（建築 CG デザイン学科科長）、釜友知與子（専科2級建築士科科
長）、廣辻雅之（専科1級建築士科科長）、山本順也（住環境リノベーション学科副科
長）、野瀬孝男（土木工学・建設エンジニア学科科長）、亀井哲男（事務局長）、
藤本 喜 代志（広報部長代理）（計 12 名）（参加者合計 21 名）

3. 議事次第

(1) 開会挨拶

堤下校長から本会議の趣旨説明および藤田委員長から挨拶がおこなわれた。

(2) 議 案

令和3年度学校関係者評価委員会評価報告(案)について

令和3年度学校関係者評価委員会評価報告(案)についてその内容が承認され、委員会よ
り修成建設専門学校に報告書が提出された。

(3) 2022 年度 各学科課程修了報告

① 建築学科（昼）：見邨委員

昼間部1年生6クラス、2年生6クラス課程修了

これまで制限を受けていたインターンシップであったが、今年度においては多数参加
することができた。進路については、大学編入5名、専科進学予定者38名

就職決定先の職種において、昨年度と比べるとやや設計分野よりも施工分野の比率が
増えた。以上から、選択科目において施工系科目の充実を図り、施工系進路において

も選択しやすいカリキュラムを編成していく必要がある。

② 建築学科（夜）：増田委員

夜間部 1 年生、2 年生各 2 クラス課程修了

本年度から週 1 日であるが、登校して対面での受講と自宅等でオンラインでの受講をミックスしたハイブリッド授業を実施した。学生から好評を得ている。

③ 建築CGデザイン学科：玉井委員

1 年生、2 年生各 1 クラス課程修了。

資格取得は建築 CAD 検定 3 級 87.5%、2 級 66.6%、(過去最高) パース検定 2 級 60% の合格率であった。2 年生卒業後の進路内訳として、6 割は就職、2 割が専科への進学が決まっており、数名が活動中である。本学科は、本校で唯一カリキュラム内に BIM を学べる学科である。今年度は例年よりも早く BIM を学ぶようカリキュラム編成を行なった。また、CAD 検定にも力を入れている。

④ 空間デザイン学科：鍵谷委員

1 年生、2 年生各 2 クラス課程修了。

特徴である多様な進路分野に対応するため、学科として重点をおいている資格の取得に関しても一定の成果を得ることができた。また進路状況としては 2 年生 6 名が専科 2 級へ、さらに本科在学中に二級学科合格した学生 1 名が専科 1 級へと進学する。就職志望の学生に対しては進路担当との連携のもと、ほぼ全ての学生が希望の進路を決定することができた。

⑤ 住環境リノベーション学科：山本委員

1 年生、2 年生各 1 クラス課程修了。

新カリキュラムが一巡、前年度に比べ充実した実習を実施。PC 導入に伴い授業運営が充実、合同授業、見学会等行事も実施できた。施工管理検定試験の合格率も向上した。進路は就職を 10 月に全員決定。

課題として、進路決定が早かった事も影響してか、2 年生の演習や卒業設計といった科目において、やや受け身的な姿勢が見受けられた。

次年度はカリキュラムを改善しながらより学科の特色を出せるように取り組みたい。

⑥ 土木工学科・建設エンジニア学科：野瀬委員

土木工学科・建設エンジニア学科ともに 1 年生、2 年生各 1 クラス課程修了。

カリキュラムの変更を実施した為、2 年生は旧カリキュラム、1 年生は新カリキュラムでの運営となった。また、1 年生はノート PC の導入もあったが、大きなトラブルもなく実施することができた。

学外での活動はコロナ禍でも見学会は実施した。ただし、宿泊を伴う 1 年生の富士研

修は中止となった為、3日のインターンシップに参加し、進路決定の準備を行うこととなった。2年生の進路は施工管理が多数を占め、現在数名が進路未決定となっている。

資格に関しては施工管理の合格率 100%を目指しているが、全国平均の合格率は上回ったものの 70%を下回る結果となったため、試験対策の実施を検討する。

技術士第1次検定の合格者がでた。

⑦ ガーデンデザイン学科：堤下校長

1年生、2年生各1クラス課程修了。

資格では、造園技能士2級に80%、3級に76%合格、2級造園施工管理技技術検定に82.3%、2級土木施工管理技術検定に100%合格する結果となった。

西淀川区の「大野川緑陰道路みらいにつなげるみちプロジェクト」を本校のガーデンデザイン学科の学生と大阪市西淀川区役所との共同プロジェクトとして進めている。本校の学生が設計と施工を担当し、材料などは西淀川区の提供を受けて実施している。1期工事は本年3月末を予定している。

⑧ 専科 2級建築士科：釜友委員

今年度の学科合格率 69.89%、製図合格率 88%という結果となった。

本年度は対面授業とコロナ感染や後遺症での欠席を考慮し、すべての授業をハイブリッドで実施した。

(学科)

- ・各テストで弱点を見つける弱点シートで個別分析
- ・質問しやすい環境づくりに努めた。

(製図)

・講師4名体制、講師間で打合せの連携を重視、去年同様の高い合格率となった次年度はモチベーションアップを意識し、事前ガイダンスの追加、学生間でのグループ学習での学生間の教え合いの活発を目指す。宿題帳の改善（正誤だけでなく、一枝一枝答える方式）

後期の授業（スキルアップ講座）は新たに、まちづくりファシリテーター養成講座（まちづくりの促進者・空き家問題など）、施工管理技士補対策講座を開設し、学生が選択できるようにする。

⑨ 専科 1級建築士科：廣辻委員

学科試験は全国平均合格率が21%の所、4名全員合格（100%）と予想を上回る成果を上げたが、製図試験は全国平均が33%の所、1名（25%）の合格に留まり、次年度は製図にも注力したい。製図試験後のスキルアップ授業では、各自で個別にテーマを設

定し、卒業研究を実施して知識の応用や社会人基礎力を高めることに努め、一定の成果が伺えた。

就職については、早期に個別面談を実施し、本人の努力もあって鹿島建設、高松建設、重松建設といった大手・中堅ゼネコンの内定を得ることができた。また 1 名が次年度の製図合格を目指して本校の製図再チャレンジコースを希望している。

⑩ 質疑応答

藤田委員長：求人企業が多い分、選択肢が増えることは喜ばしい。

丸山委員：各委員からの報告に退学のことを触れていたが、退学・除籍が多い印象がある。コロナの影響はあるのか。

→谷川：コロナによって通学が困難な学生が増えたように思える。また、メンタルに問題を抱えている学生もいる。

相賀委員：アフターコロナにより留学生の数も増えてくると思うが、学校の対策は。

→堤下：コロナ禍の中、マスクで口元を隠した状態でのコミュニケーションは、語学力を向上していくうえで、大変過酷なことである。そういった意味で日本語力が低下していると言わざるを得ない。ただし、学校としても対策が必要であると強く認識しており、日本語学校にも協力していただき、日本語力向上に向けた特別講義を行っている。

大和委員：本校にも留学生はいるが、やはり日本語力が弱い。日本語教育を充実させている。

大槻委員：西淀川区との協働ですが費用はいかがでしょうか

→堤下：区の予算で材料を用意して頂いているが、学生への報酬はなし。実習をさせていただく立場で臨んでいる。

(4) その他

① 卒業生意見交換会 実施報告

校長から卒業生意見交換会の議事録をもとに報告があった。

(記録・文責：廣辻雅之、亀井哲男)